

第7回可児市地域公共交通協議会議事要点録 概要

【日 時】 平成 21 年 12 月 18 日（金）午後 1 時 30 分～午後 4 時 00 分

【場 所】 可児市役所 4 階第 1 会議室

【出席者】 協議会委員 15 人、代理委員 4 人、事務局 3 人

1 会長あいさつ

【あいさつ要旨】

デマンド運行実験とアンケート結果の報告をさせていただき、今後の運行形態等について協議いただきたい。

【その他】

会議要点録署名者として佐々木委員と鷲見委員の指名があった。

2 報告

資料 1、資料 2、資料 3、資料 4 に基づき事務局から説明した。

川合土田線の運行経費の質問があった。

（主な意見）

【発言者】 委員 事務局

川合土田線の運行経費はどのように算定されるか。

運行経費単価（295 円）×走行キロです。

3 議事

資料 5、資料 6、資料 7、資料 8 に基づき事務局から説明した。

川合土田線は廃止し、「電話で予約バス」を本格運行することとなった。

本格運行の「電話で予約バス」の運行曜日は月曜日～土曜日とし、予約の受付は FAX でもできることとなった。運賃は検討課題となった。

（主な意見）

【発言者】 委員 事務局

運行の改善について

デマンド運行検討会の改善案の説明をお願いしたい。

一点目は、自治会未加入者を含む沿線住民や沿線施設利用者への周知を図る。二点目は、予約は FAX でもできるものとする。三点目は、運行日を月曜日から土曜日とする。

四点目は、運賃を 200 円とする。その他、停留所の配置や運行後の見直しについては地域住民や利用者との協議の場を設けて検討するという話があった。

利用者が減っている中で運行日の拡大以外の改善がなされていない。遠野市、長浜市の失敗事例を可児市に導入して大丈夫か。PC システムの実験の費用は数十万円であり、可児市全体の問題として行っているの、今後の方向性を示すために PC システムの費用を市が負担して並行して実験を行うべきである。

川合土田線の改善の協議であり市全体の問題ではない。

運行事業者は PC システムは不要としている。

利用者が減ったのは PR 不足が原因でないか。

実験開始から 3 か月の時点で利用者数を前年と比べるのは難しい。利用者数は月毎に回復しており、今の方式がよくないことにはならないと思う。

地区の協議会で PR することが改善案に入っている。

地域住民は今の状況でよいとしている。

PC システムの費用は国交省の調査結果に出ており多大な費用がかかる。運行事業者も PC システムは不要としているので PC システムの実験は不要と考える。

運賃について

川合では年金生活で往復 600 円は厳しいとの意見があった。

公共が行うことなので利用者の立場を考えるのが第一である。利用者が減っている段階では 200 円でもよいと思う。

さつきバスの利用者はほとんどが 100 円の利用者である。100 円が 3 倍になると考えたら高いと思う。

鉄道でも利用者から運賃を安くしてほしいと要望を受けるが、この話を続けると究極的には無料でよいことになり議論の方向としてはどうかと思う。「電話で予約バス」は可児市のコミュニティバスの中で抜け出た存在で、全体のバランスを考えた場合には 300 円は十分検討に値すると思う。

川合土田地区には路線バスが運行していないので今回は 200 円でもよいが、将来的に可児市内全域で 200 円の場合、路線バスではそれほど安い路線はないので心配である。運賃は距離と利便性によると思う。実験の平均距離は 4.4km で、ほぼ同じ距離のバスの運賃が 310 円である。同じ距離でバスより早くなっているのに運賃が 200 円になるのは少し違うのでないか。全体的なバランスの中では 300 円はよい数字だと思う。

公共交通を使わないから消えていく。公共交通が消えてほしくなかったら使うことである。現在は車を利用しているが、自分たちが高齢になって自動車を運転できなくなったときに自分で自分の首を絞めることになると思うし、公共交通の利用を理解していただくと随分変わってくると思う。300 円も受け入れてもらえると思う。

大森桜ヶ丘線はいつも利用者が多く、200 円払う人はほとんどいない。ほとんどの利用者が 100 円から 300 円に上がったので高齢者にとっては厳しいと思うが、利便性を考えると 300 円でもいいと思う。

持続可能な町の再構築が求められている。赤字路線だからデマンド方式に着手したのであれば、一定の利用者負担を求めないと自主運行バスそのものができなくなり拡大もできなくなるので 300 円は適当と思う。

山間部では、路線バスがなく週 1 回の通院でタクシー代が 4,000 円から 5,000 円であり月に 2 万円程度かかる。運賃が 300 円で往復 600 円はありがたいと思う。300 円は妥当な料金と思う。

300 円か 200 円かで地域の方に意見を聞けば 200 円になると思うが、バスが利用されていない問題と環境の影響があり、地域住民に今回の問題を認識していただくと利用し

てもらえる可能性が出てくると思う。

実験では平均距離が 4.4km だったが、別地区でこの距離が延びると運行事業者に補てんする金額が高くなり収支率が下がる。事業の持続可能を考えると受益者は 30%か 3分の 1 は負担し、税金で 3 分の 2 の負担でなければ財政上非常に厳しい。今後の展開と公共交通全体のバランスと利便性向上を考え、300 円が妥当ではないかと提示した。一般 300 円、高齢者 200 円、障がい者と小人 150 円が考えられる。

運賃が複雑では運転士が間違える要素が増えるので心配である。

運賃が 3 段階では複雑かもしれない。

一般 300 円、高齢者と障がい者と小人 200 円でどうか。

障がい者は半額が基本である。

2 段階であれば、一般 300 円、高齢者と障がい者と小人 150 円でどうか。

今回の割引の案は岐阜県バス協会の割引と同じである。ほとんどの公共交通機関で半額という考え方が浸透しているので、「電話で予約バス」も半額が分かりやすいと思う。バス協会では高齢者割引はない。運行距離が長くなる地域では運行経費がかさむ可能性が高く、300 円を基本に利用者の負担をお願いしたい。高齢者も 150 円とすると収支の状態が悪くなる可能性があり、定時定路線の便数を増やす財源もなくなるので、高齢者 150 円は厳しいと思う。

たくさん乗ったら金券をその場でもらって次に使えるなどにすれば、引き続いて利用してもらえることに結びつくと思う。弾力的な工夫をして客が増えていく方法は取れないか。

タクシー会社の高齢者割引は 70 歳以上である。デマンドの時だけ 65 歳以上は半額で、普通のタクシー利用の客は 70 歳以上で 1 割引というのはいびつな部分がある。

運賃の議論は先延ばししてはどうか。今の段階では色々な案があり答えが出せるか分からないので、まず 4 月に向けては 300 円でどうか。利用者は安い方がいいというものも分かるが、今後乗降数の比率も変わってくると思う。この議論の状況で決めていいものかどうか心配である。運賃を上げるのは難しいが下げるのは簡単だと思う。

今後のスケジュール

運賃の影響が非常に大きいと思うので、できるだけ早くもう 1 回検討した方がよい。事務局で案を考えていただき、書面会議でも良いのでスピード感を持って進めていただきたい。

この協議会には書面議決はないと思う。

来年の 2 月、3 月に開いていただければと思う。

次の協議会については後日連絡する。

4 閉会

本日の協議会では非公開部分はないことを確認し、協議会を閉会した。